



立命館大学 産業社会学部 つどの まさとし
教授 津止 正敏

立命館大学大学院社会学研究科修士課程修了、京都府社会福祉協議会(地域福祉部長等担任)の後、2001年から現職。
2009年3月に「男性介護者と女性の全国ネットワーク」を設立。当初役員に就任。著書に「ケアメンを呼ぶ 男性介護者100万人へのメッセージ」「男性介護の白熱 一筆書介護者支援への提言」など。

介護しながら働くー「ワーキングケアラー」という課題ー

いま介護しながら働いている人が増えている。「ワーキングケアラー」という言葉も広がっている。7月12日に発表された総務省の平成24年版就業構造基本調査がこれを裏付けた。全国の就業・不就業の実態を年齢や性別、所得、就業の形態、環境等々を詳細に把握する5年に一度実施される大規模調査だが、今回初めて就業者の介護の有無を聞く項目を設定した。

それによると、いま介護しながら働いている勤労者は290万人、うち男性が130万人、女性が160万人、働き盛りの60歳未満が約200万人という驚きの数字が並んだ。就業者全体(6442万人)では介護している人は5%弱だが、これを年齢別みると事はもっと深刻だ。職場の中核社員、働き盛りの50代後半では10%を超え、働く60代でも9%に上る。そして過去1年間(平成23年10月～24年9月)に家族の介護のために離職した人は10万1千人、5年間(平成19年10月～24年9月)では48万7千人に上る。

数年前、懸命に働いているのに賃しきから抜け出せない人々を指して「ワーキングプア」という言葉が生まれ、社会に警鐘を鳴らしたが、この社会はこれまで介護や賃しきを、働くということとは全く無縁のように扱ってきた。真面目に働きさえすればその「リスク」はほぼ避けることができた。しかし、ワーキングプアの衝撃は働くということが賃しきのリスク回避になりえないという現実を、幾つもの具体例を持ってこの社会に提示したことがある。怠けているわけでもなく失業しているわけでもない。むしろ懸命に働きながらも賃しきに喘ぐ若い世代の惨状と共に世に広まっていった。いま始まりつつある非正規労働者やブラック企業への社会的批判の先駆けとなり、地道な社会運動を支えてきた。

「働く」ということではワーキングケアラーもワーキングプアと同様の構造を持っている。これまで介護に専念すると、家計の大黒柱として就労する人がそれぞれに互いに助け合って暮らしを支えるということが家族として当然視されてきた。各自それぞれに家族内の分業があり、豊富な家族資源の合理的な割振りを通して、家族に生ずる「リスク」を何とか最小限に封印してきた。苦しいながらもそのことが逆に家族の結束を補強する絆にもなった。このシステムが機能している限りにおいて介護と仕事は家族内においてごく自然に統合されてきた。これが私たちの脳裏に刻まれた介護するということと働くということの関係だった。でもこの記憶はもはや常識でも現実でもして合理的でもなくなったようだ。社会に深く浸透している介護と仕事の分裂という重いリアルがある。

でも、賃しきと違って介護は絶対にリスクであってはならない。「貧困撲滅!」というスローガンは道理もあり正義もあり得るが、介護はそうはならない。「介護をなくそう」というスローガンが介護する／されるという介護当事者はもちろん、市民の共感を呼び込むはずもないからだ。その主張を否認し正当化すればひとり高齢者だけでなく障害のある人や難病や精神を病む人も一様に劣化市民とみなし社会的に排除する思想に連なっていくからである。だから、介護と仕事の両立・ワーキングケアラー支援という新しい社会政策の課題が浮上する。「介護退職ゼロ作戦」という新しい社会運動が立ち上がる根拠でもある。なくすべくは、「介護」ではなく、介護退職・介護事件・介護難民そして介護を排除する思想だ。

特集2

～男性相談の窓口から～

シニア品川カウンセラー 吉岡 俊介



1954年生、介護福祉士を早期退職後、2004年より近畿を中心に各地の自治体において男性相談窓口の開設支援や相談員として関わり、著書に『男性相談の窓口』(講談社)『なだ』(新風館)など、NHKにも男性相談の解説者として出演。

その昔、「24時間戦えますか～ジャパニーズ・ビジネスマン」というキャッチ・コピーのもとで大ヒットしたCMソングがありました。その頃はバブル景気にわいていた時代で、私も以前勤めていた会社では「24時間男」を地で行く企業戦士の道をまい進していました。この歌詞を見ると、当時の男たちに期待された姿のキーワードが伝わってきます。「勇気」「戦う」「勝利」「正義」「嘘の炎」「許さない」等々。長時間労働をいとわず、どこまでも精力的に頑張る姿が「男の美学」のように歌われたのです。そこには簡単に音を上げるような男のイメージは全く存在しません。

バブル崩壊後は、この歌は流れなくなりましたが、「勝ち組、負け組」という言葉が盛んに使われるようになります。私自身も勝ち組を意識していたことを思い出します。その意識の中で、依然として歌詞のキーワードは生き続けていました。勇気をもって戦い続け勝ち組を目指す。それは、弱音を吐いたら戦線を離脱して負け組になってしまうという不安の裏返しでもあります。そして世の中は年間の自殺者が3万人を超える時代へと突入します。

勤めていた会社を早期退職して、男性の悩みに関わるカウンセリングや自治体の男性相談の仕事に関わるようになりましたが、以前の私のように「男の纏」をまとい、弱音を吐けず、自分に鞭打って頑張ろうとする男性たちの姿に接します。もう戦えないほど心身ともに疲弊していても、そんな自分を許すことができない。自分の弱さに目を向けようとせず、また心の傷が深いのに、傷を負ったこと自体「負け組」として認めようとしません。そこには今の時代においても、先のキーワードに取っつかれ、「男らしさ」に縛られて苦しむ男性たちの姿が浮かびあがります。

相談する行為そのものを「男らしくない」とする男性た

ちが、追い詰められ、どうにも立ち行かなくなり、それこそ勇気を振り絞って男性相談につながってきません。「あの…つまらない悩みなのですが」「くだらないことですが、よろしいでしょうか?」。恐る恐るためらいながら納々と語り始めます。

相談の内容は多岐にわたります。仕事、夫婦や男女関係、親子関係、健康、生き方、性に関わる問題など、様々な悩みが語られます。自分の暴力をなんとかしたいという相談もあります。彼女ができない、背が低い、スポーツが苦手などの悩みも若い世代から寄せられます。多くの場合、その根底には「男はかくあるべき」という固定的性別役割分担意識にとらわれ、ありのままの自分を受け止めることができないという問題が見られます。

こうした男性たちが身に着いた頑なな男らしさの縛りを解きほぐすことが男性相談の大きな役割のひとつです。つらいと言える、弱音を吐ける、涙を流せる。男らしさのキーワードから解放され、本音の言葉で安心して自分の気持ちを語ることは、遅て前に押しつぶされそうな自分を回復させる作業になります。それは自身の傷を癒し、ストレスを解消するだけでなく、男らしさの縛りで狭められた視野を一層広げ、問題解決に向けた第一歩につながります。

そして男性相談は次のキーワードとの出会いの場にもなります。「受け止める」「寄り添う」「つながる」。それらを体験し、自分の新たなキーワードにすることは、身近な人との関係改善にも役立ちます。男性相談は男性たちの活力を促すだけでなく、権力志向、パワー依存の男性優位社会を解消し、社会全体のしこりを解きほぐす役割を担っています。それは男女共同参画社会の実現に向けた大切な使命といえるでしょう。

ムーブでは、今年度「男性相談員による男性相談」窓口を開設する予定です。(月2回程度)「男らしさ」に縛られ、生きづらさを感じている方、ぜひ一度ご相談ください。

平成25年度 男女共同参画講座 6月19日(水)13:30~15:00 ムーブ5階 大セミナールーム

「八重の桜と裏の梅~ハンサムウーマン 新島八重の生涯~」

【講師】 同志社大学神学部元教授 木井 康博さん

今年のNHK大河ドラマ『八重の桜』の主人公である新島八重に焦点をあて、同志社大学神学部元教授で新島襄研究の第一人者である本井康博さんを講師にお迎えし、「ハンサムウーマン」八重の魅力がユーモアにあふれる軽快な切り口で語っていただきました。新島襄の語る「ハンサムウーマン」のエピソードや大河ドラマの監修の結にも触れ、大入湯員になった会場の皆さんも熱心に聴き入っていました。



八重は父と弟を殺され、兄は拉致されるという悲惨な経験をするが、何回倒れても起きあがる信念のある人だった。見た目はハンサムではないけれど、することがハンサム。

新島襄が八重と婚約した時、写真をアメリカの友人に送った。その際の手紙には「100%美人ではない。しかし、私は彼女の『生き方がハンサム(does handsome)』ということを知っている。私にはそれで十分である。」と書かれている。

2人は外見には左右されず、お互いの生き方を認め合うハンサムカップルを目指した。また、八重も「ハンサムウーマン」になろうとしていた。

襄の言葉に「真理は寒梅の以し 取えて風雪を侵して開く」がある。またもうひとつ「笑って風雪を侵して開く」とある。襄は、笑って悪条件を克服して花をつける寒梅が好きだった。そして、八重はその裏の寒梅精神に共鳴した。ハンサムに生きるとともに、寒梅のように生きた女性、それが八重である。

エプロン男子 初級編

4月27日、5月11日、5月25日(全3回)
 (午前の部)10:00~13:00(午後の部)14:00~17:00
 ムーブ4階 料理室 工芸室

ムーブでは平成23年度より男性のための料理教室「エプロン男子」を開催しています。大好評の講座ですが、講座終了後のアンケートで「少し難しかった」という声が複数寄せられたため、25年度は初級編・中級編とレベルを分け開催することにしました。

今年度が初の試みとなる「初級編」には16名の定員に対し64名の応募があったため、急ぎよ午後の部を増設し、20代から80代までの幅広い年代の方に受講していただきました。初回は米の研ぎ方や野菜の切り方などの基本を丁寧に学び、2回目は家族が病気になったときのためのお粥作り、3回目は和食の定番肉じゃがなどに挑戦しました。講座で習った料理を家族にふるまった受講生も多く、家族の「おいしい」という言葉が励みとなっているようです。初心者向けのレベルでゆっくり講座を進めることで自分の腕に自信をもち、料理の楽しさを感じる受講生が多く、今後も男性の積極的な家事参加の促進に向け講座を継続していく予定です。



女性のための法律基礎講座

6月8日(土)14:00~16:00 慰謝料・財産分与
 6月15日(土)14:00~16:00 親権・養育費
 ムーブ5階 小セミナールーム

【講師】 弁護士 小倉 知子さん

ムーブでは毎年離婚に関する必要知識を、弁護士がわかりやすく解説する女性のための法律基礎講座を開催しています。今年は定員の30名を超える受講生を迎え、慰謝料や財産分与の基本的な考え方について、また「子どもの親権、養育費はどうやって決まるの?」といった離婚に伴う諸問題に関わる法律を学びました。

受講した8割の方が「とてもわかりやすかった」との回答を寄せた満足度の高い内容で、これから離婚問題に立ち向かう人にとっての、新しい人生の歩みにつながった講座となりました。

新講座 働くまでしこ応援講座 ストレスケアの処方箋

5月8日、15日、22日(全3回)19:00~20:30
 ムーブ5階 小セミナールーム

年度が替わり変化の時期である5月に、新しい環境に対して不安や疲れを感じている女性が、いきいきと元気に働き続けるために、自分に合ったストレス解消法を身に付ける講座を開催しました。

まずは、チェックシートで自分のストレスタイプを知り、ストレス解消法の1つとしてアロマテラピーの楽しみ方とオリジナルオイル作り、日頃から手軽にできるハンドマッサージを学びました。また、コラージュ(貼り絵)セラピーでは、雑誌などからお気に入りの写真やイラストなどを切り抜いて紙の上に好きなように貼り、1つの作品を完成させました。「短時間で集中できた」「自分の素直な内面が表現できてストレス発散になった」など、初めて体験したコラージュセラピーの効果を感じた受講生も多く、「人生のスパイス」とも言われるストレスを戦略的にとらえて、ケアする方法を学びました。



新講座 相談室「性同一性障害について考える」

5月18日(土) 14:00~16:30
 ムーブ5階 小セミナールーム

「セクシュアルマイノリティと精神医療の関わり」性同一性障害・トランスジェンダーの方たちを通して学んだこと一

岡山大学病院精神科神経科 助教 岡!!大学シスタークリニック コーディネータ 松本 洋輔さん

「性同一性障害の当事者がおかれている現状と課題」

一般社団法人gid,ja日本性同一性障害と共に生きる人々の会 代表 山本 蘭さん

「体験談と社会に望むこと」

同 九州支部長 性同一性障害当事者(FtM⇒Female to Male) 権太 信さん

「当事者の思いと家族」

同 九州支部世話人 性同一性障害当事者(MtF⇒Male to Female) 西山 あさ子さん

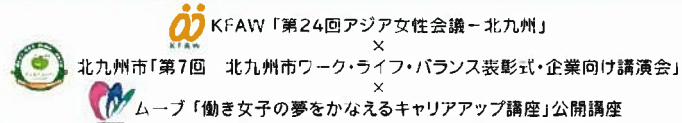


募集定員30名に対して60名のお申込み、参加がありました。北九州市内から5割、福岡県全域や他県からの参加が5割となり、大変多くのおみなさまに関心を持っていただいたことで潜在化された地域社会のニーズが顕在化されたことがわかりました。

今回の講座では、講師の方々から性同一性障害に関する正しい知識や体験談をお話しいただき、性同一性障害当事者の方々が地域社会で置かれている現状や家庭、医療、雇用、学校等における問題や今後の課題について、講師と受講者が一体となって考える場となりました。感想では当事者、当事者のご家族、対人援助職者、一般の方々のたくさんの想いが綴られていましたので、ほんの一部ですが紹介します。

- 当事者の方々の気持ちに胸を打たれました。私は、子どもが性同一性障害で女から男に生まれ変わりました。今回の講座をとても嬉しく思い、お話を聞けて心が安らぎました。
- テレビでは何となく性同一性障害について知っていたが、医師、当事者の話が直接聞け、きちんと知ることが出来た良かった。gidやLGBTの会などの当事者団体があることを初めて知った。当事者の方々が政治に参加し、偏った社会制度の変更や自殺対策に取り組むNPOとの横のつながりを持つことが出来ると良いと思った。
- 私の中で「性同一性障害」に対して、偏見があったのかなと今日の講演を聞いて思った。町で見かけると、やはりびっくりしてしまう自分がある。でも、それは「性同一性障害」の知識が無いからだったのかなと思った。まだまだたくさんの課題がありそうだけど、みんなが笑顔で暮らせる日本になって欲しい。
- 私も高校生の時、病気になるずっと悩んでいました。今回の講座に参加させていただき、性同一性障害について詳しくわかりました。一日でも早く、私たちが安心して暮らせる日本になることを願っています。

いかがでしたか。感想からも受講者のみなさんそれぞれが地域社会から置かれている立場で、ひとりでは悩み、孤独感を抱えていたような印象を受けるのではないのでしょうか。地域社会で差別や偏見をなくし、孤立を防ぐためには、他者を「知ろう」とする想い、人と人の心が通い合ったつながりが欠かせません。これからも安心して安全な男女共同参画社会を目指して、一緒に集い、考えることができるような相談事業に取り組んでいきたいと思います。



国際シンポジウム 「女性の活躍が日本、世界を変える」

「女性の活躍推進」は、我が国において政府の成長戦略の大きな柱の一つです。女性が個性と能力を十分に発揮し、活躍できる社会の実現は、我が国の経済社会の活性化にとって必要不可欠です。

この国際シンポジウムでは、経済界の女性リーダーである内永ゆか子さんを迎え、企業戦略としての女性活用について語っていただきます。その後、世界的に女性活躍が進んでいるノルウェーの事例をノルウェー王国大使館の方から紹介していただき、韓国と北九州の取組みを加えながら、パネルディスカッションを行います。

日時	11月9日(土) 13:00~16:00
会場	ムーブ2階ホール
定員	500名(先着順)
参加費	無料
託児	あり(1人500円・要予約)



内永 ゆか子
東京大学、日本IBM研務執行役員、2008年ベルリッツインターナショナル(現ベルリッツコーポレーション)最高経営責任者(CEO)、各賞会長を歴任、2007年からNPO法人J-Win理事長を務める。

- 第1部:第7回 北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰式
- 第2部:記念講演 **「女性活用は企業戦略~企業、そして女性へのメッセージ~」**
内永 ゆか子さん(NPO法人J-Win理事長)
- 第3部:パネルディスカッション
【パネリスト】内永 ゆか子さん(NPO法人J-Win理事長)・ビヨーン・ミットゥンさん(ノルウェー王国大使館公使参事官)・ホン・ミヒョンさん(韓国・仁川女性家族財団 政策研究室長)・龍田 淳子さん(尚ゼムカウンセラー代表取締役)
【コーディネーター】堀内 光子((公財)アジア女性交流・研究フォーラム理事長)
※第2部、第3部は、日英特約通訳あり。

(公財)アジア女性交流・研究フォーラムからのお知らせ

- ◆2013年度第2回アジア研究者ネットワークセミナー
「アメリカにおける性暴力被害者支援のしくみと成果・課題」
日時 10月15日(火) 18:30~20:00
- ◆KFAW領事館シリーズ特別編 イヴォーン・デーヴィス氏来日記念セミナー
「最高のリーダーシップとは:女性のより一層の活躍を目指して」
日時 10月24日(木) 18:30~20:30
- ◆KFAW領事館シリーズ 在福岡ベトナム社会主義共和国総領事 講演会
「ベトナムの歴史文化と家族の姿 ~日本・ベトナム友好40周年の歩み~」
日時 11月27日(水) 15:00~16:30
会場は全て北九州市立男女共同参画センター・ムーブです。



内閣府が主催する平成25年度「女性のチャレンジ賞」を藤田淳子さん(有限会社ゼムカウンセラー代表取締役)が受賞しました。男性が多数を占める建設業において、「女性だからできる経営」を実践されています。

お申込み、お問合せ (公財)アジア女性交流・研究フォーラム
TEL.093-583-3434 FAX.093-583-5195 URL <http://www.kfaw.or.jp/>

おすすめ講座 紹介

8月からの新講座!
「働くために贈る!お役立ちワンポイントセミナー」
働く女性のために毎月1回異なるテーマで講座を行います。
1回のみのお申込みも可能です。

11月2日(土) 13:00~15:00 「リンパマッサージで ストレスケア」 ストレスが原因で起こるホルモンのバランスの崩れとその症状、予防法について、リンパマッサージの実習も交えながら学ぶ講座です。	12月8日(日) 13:00~15:00 「仕事効率20%アップ?! 机まわりの美・整理術」 デスクに資料が山積み、いつも何かを探している、そんなあなたに目からウロコの整理術を伝授します。美しいデスクで気分一新、新年を迎えませんか?	1月25日(土) 13:00~16:00 「仕事でもプライベートでも使える!プレゼン力アップ講座」 論理的で説得力のある話し方を身につけ、社内でも社外でも、様々な場面で通用するプレゼン力を養う講座です。シンプルに分かりやすく伝える技術を身につけましょう。
2月22日(土) 13:00~15:00 「おうちでオフィスで リフレッシュアロマ」 家で過ごすことの多いこの時期に、心身ともにリフレッシュできるアロマセラピーを学びます。オフィスでも使えるアロマの活用方法を知り、ストレスフルな毎日をちょっとリフレッシュしましょう!	3月22日(土) 13:00~16:00 「やる気を引き出す 上手な叱り方、ほめ方講座」 部下や後輩、また家で子どもに対して、どうやって叱ればいいのか悩んでいませんか?「叱る」と「怒る」を区別して、感情的にならず相手のやる気を伸ばす上手な叱り方を、実践を交えて学ぶ講座です。	お問合せ 事業課 TEL.093-288-6262 お申込み ムーブのHP・FAX・ハガキにて http://www.kitakyu-move.jp/ FAX.093-583-5107 〒803-0814 小倉区大正町11-4 ムーブ事業課

レディスもじ からのお知らせ

- 「元気を引き出す食と健康講座」(全4回)
日時 平成25年10月30日~11月20日
毎週水曜日 18:30~20:00
- 「お金がたまる家計術」(全4回)
日時 平成25年11月7日~11月28日
毎週木曜日 10:00~12:00
- 「働く人のための料理教室」(全4回)
日時 平成25年10月19日~11月30日
土曜日 10:00~12:00
- 「雅楽演奏会」(1回)
日時 平成25年11月10日(日)
13:30~15:00
- 「お父さんと子どもを取り巻く課題と対応」(1回)
日時 平成25年10月22日(火)
10:00~12:00

北九州市立東部勤労婦人センター・レディスもじ
〒800-0051 北九州市門司区下馬町6番8号
TEL.093-371-4649 FAX.093-371-4268
<http://kinroufujin-kitakyu.jp/moji/>

レディスやはた からのお知らせ

レディスやはたフェスティバル2013

日時 平成25年10月26日(土)・10月27日(日)
作品展示会、ランチバザー等

- 10月26日(土) 9:00~17:00
 - リサイクルバザー 10:00~12:00
 - クラシックギターコンサート 無料
「プロが奏でるギターの調べ」若菜 潤一郎さん 13:00~14:30
- 10月27日(日) 9:00~14:30
 - メディア活用講座 講演会
「そこまで言っていないです!?パート2」
11:00~12:30 無料
FBS福岡放送局アナウンス部
ニグゼクティブ・アナウンサー
古賀 ゆきひとさん (のんたいワイド出演中)
 - 女性のためのセルフディフェンス講座

北九州市立西部勤労婦人センター・レディスやはた
〒805-0059 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番6号
TEL.093-661-1122 FAX.093-661-2714
<http://kinroufujin-kitakyu.jp/yahata/>